

訴 状

2005年3月4日

横浜地方裁判所 御中

原告ら訴訟代理人

弁 護 士 梶 山 正 三

当 事 者 の 表 示 別紙当事者目録記載のとおり

怠る事実の違法確認等請求住民訴訟事件

訴訟物の価額 金160万円

手 数 料 額 金1万3000円

請求の趣旨

- 1 被告が、厚木市と相模興業株式会社との間で平成16年7月13日締結した別紙土地交換契約目録記載の土地交換契約（以下「本件土地交換契約」と云う）を解約又は解除して、当該交換契約で交換に供した土地（以下、元厚木市所有地という）を再び厚木市の所有地とすることを怠ることは違法であることを確認する。
- 2 被告が、平成15年12月26日付で告示した別紙「廃止された市道の目録」記載の厚木市道I-705上荻野字用野華厳線ほか6市道を廃止して、これら市道の道路敷きを普通財産とした処分（以下「本件市道廃止処分」という）は無効であることを確認する。

との判決を求める。

請求の原因

1 当事者

(1) 原告ら

原告らは、いずれも厚木市の住民である。いうまでもないが、厚木市民として、厚木市の財務会計上の違法不当な行為を正すことは原告らの責務であるだけでなく、権利でもある。

本件で対象とする被告の違法な財務会計上の行為は、相模興業株式会社（以下、単に「相模興業」という）の採石場増設計画の便宜を図るために、厚木市の行政財産たる市道を廃止して、普通財産にしたうえ、その道路敷き部分の土地を本件土地交換契約により、相模興業に引き渡した行為である。

本件訴訟に先立ってなされた住民監査請求における請求人代表花上義晴は、元厚木市議会議員であり、本件訴訟においても率先して原告になった。同原告は、有志と共に「西山を守る会」を結成してその代表になり、相模興業の華嚴採石工場増設計画に加担する被告の前記行為が、厚木市の財務会計上の違法行為であるに止まらず、市民福祉に著しく反することを同市長に指摘し、その解消を求めてきた。同原告以外のいずれの原告も、同じく「西山を守る会」に所属し、同原告と思いを同じくして、本件訴訟の原告になった。

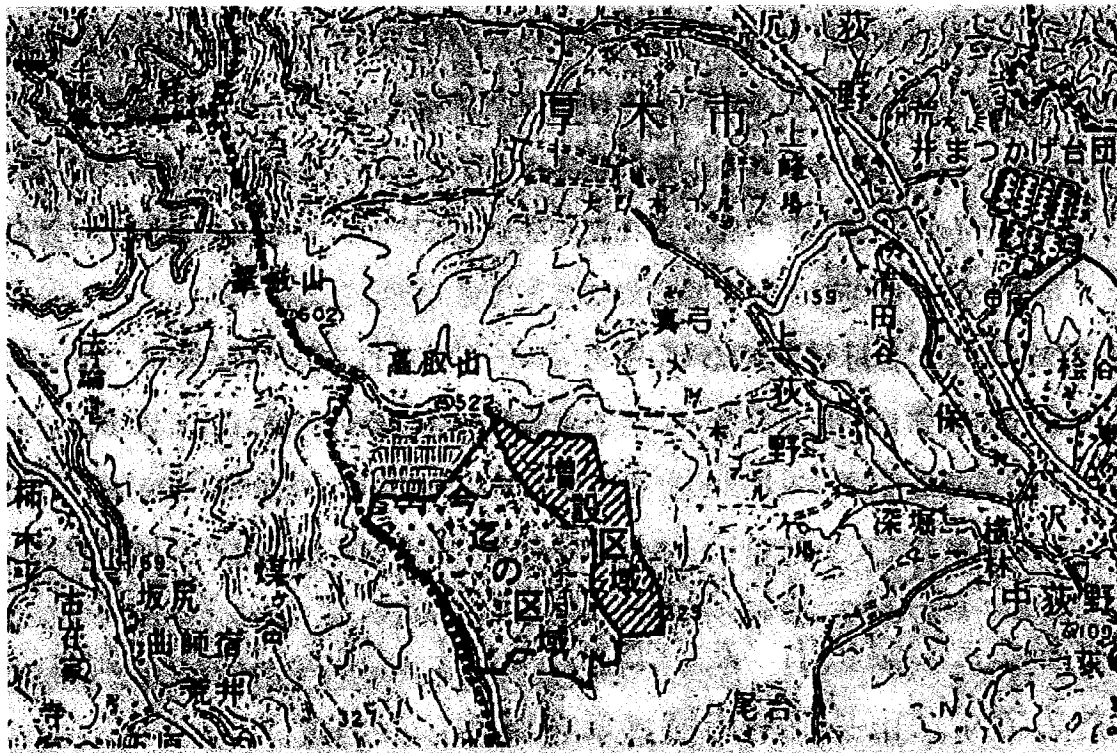
(2) 被告

被告は、現在厚木市長であり、本件土地交換契約当時及びそれに先だってなされた本件市道廃止処分の際も厚木市長であった者である。

2 本件市道廃止処分及び本件土地交換契約の経緯

(1) 採石場増設計画

本件訴訟の発端は、訴外相模興業の採石場増設計画にある。同社は、神奈川県海老名市中新田 1762 番地に本社を有し、採石業等を営んできたものであり、厚木市北西部の清川村との境界の山稜（丹沢山塊の一部をなす、g）経ヶ岳、華巖山、高取山などが連なる「西山」と呼ばれる稜線）に接する東側約 70 ha の広大な地域（関連区域、下の図で「今迄の区域」と記載されている部分）において、永年にわたって採石を行い、同地域の自然破壊に絶大な力を発揮してきたものであるが、今回、その東側に隣接した地域（実施区域、下の図で「増設区域」と記載されている部分）において採石場を増設し、関連区域と併せて約 101 ha もの、広大な地域から膨大な



量の採石を行う事業（以下「本件採石場増設事業」という）計画を立て、それに関して採石法 33 条に基づいて神奈川県知事の認可を申請してきたものである。

すなわち、同事業は、実施区域と関連区域からなっている。実施区域は厚木市中荻野字西山 1933-34 外 3 筆のうち、約 29.4 ha、関連区域は厚木市飯山字華巖地区約 72 ha、合計約 101 ha の区域において岩石採取を行うもので、その採石量は、30 年間一日当たり 10t ダンプ 500 台

分に相当する。規模・採石量ともに全国屈指のものであるが、同事業は、恐るべき自然破壊であるだけでなく、恐るべき公害被害を周辺にもたらし、かつ、相州アルプスと言われる西山の見事な山岳景観を破壊し、厚木市民及び近隣の市民に親しまれてきた歴史ある山道を失わせるという実に無謀な計画なのである。

(2) 市道付け替え申請と市道廃止処分

本件採石場増設事業の実現にとって最もネックになるのは、関連地域と実施区域（増設区域）との境目に存する約1.281kmの尾根道及び主として実施区域内に存する山麓からその尾根道に至る山道である。この尾根道及び山道は先に述べた本件市道廃止処分においてその対象になったものであるが、そのうち、特に厚木市道I-705号線（尾根道部分）は、古くから、市道として廃止された現在に至るまで、多数の厚木市民や近隣の市民にハイキング等に親しまれてきた道であった。

加えて、近年八菅修験の歴史的コースであることが明らかとなり、特別な文化性を有するものとして、調査解明への期待が高まっている。またこの尾根道には、スズリ石・毛抜き石そして文化年代（1804-1818年）から親しまれている発句石、さらに華厳山・経ヶ岳に辿る途次には蚕種石・経石を始め近傍に松石寺新四国八十八ヶ所の石仏群、弘法大師にまつわる伝承など、郷土史学習資料の宝庫として昔も今も好学風流の士の足跡の絶えることを知らない。

さらにいえば、廃止前の市道I-705号線の尾根からの景観が出色である。眼下の里山の中に佇む集落の風情。荻野川・小鮎川・中津川の流域に残る牧歌的田園風景。市域都市化の経過を追うことも出来る各小・中・高・大学や病院・工場やビル街、四通八達の道路網等郷土厚木のパノラマが一望に収まる。さらには相模平野を帯となって馬入に注ぐ相模川や、はるか京浜から相模湾、伊豆半島がかすむ絶佳の眺望は、豊かな動植物に触発される自然観察の喜びも加わり、市域はもちろん、広く首都圏からの登山

者等の訪れも漸増している。

このように厚木市民にとって、かけがえのない貴重な尾根道であるが、本件採石場増設事業にとっては、この尾根道及び山麓からそれに至る山道は大きな障害であり、これらをそのまま存置したのでは、同事業は成り立たない。相模興業は、被告に対し、平成15年7月10日、「市道の付替について」と題する申請書を提出した(甲1号証)。それには、同事業の障害となる上記市道は全て含まれており、被告は、この申請に応じて、厚木市議会平成15年9月の定例会に議案第89号「市道路線の廃止及び認定について」として、行政財産たる同市道の廃止議案を提出し、同定例会では継続審議となったが、同年12月の定例会で議決させたいえ、同月26日同市道の廃止の告示をしたのである(甲2号証)。さらに、被告は、何の自主性もなく相模興業のいうがままに、新たな路線を付け替え市道として認定した(本書面添付の路線位置図参照)。

付け替え申請の内容は、行政財産である市道I-705号線(西山尾根道延長5921mのうち高取山尾根部分延長1281m)のほか、それに至る前述の各市道(合計5673.92㎡)を岩石採取のため掘削したいので、市道を廃止し、その廃道路敷(普通財産)と廃止路線の付け替え用地として相模興業所有の山林(合計5905.39㎡)とを、交換することを求めたものであった。

(3) 土地交換契約の締結

議案第89号議決により、被告が市道の廃止処分をした結果、これら市道の道路敷き部分の土地は行政財産から普通財産になり、その処分には議会の議決等が不要となった。そして、被告は、上記申請どおり、平成16年7月13日厚木市と訴外相模興業との間で本件土地等価交換契約を締結し(甲3、甲4号証)、訴外相模興業は、高取山尾根道及びそれに至る山道である元市道の道路敷き部分を取得した。これによって同社が得られる採石可能な採石量は、高取山稜線約1.281kmを深さ200m掘削する

ことができるうえに、その両側を深く掘削することが可能になり、さらにそこに至る山道が残置されれば、その周辺両側の土地の採石もほとんど不可能になるはずが、そのような障害が除去されたことにより、30年間の永きにわたって、1日当り10tダンプ500台分（ダンプ通行量としては往復で1000台/日）の莫大な骨材を掌中に収めることとなった。

3 本件市道廃止処分及び土地交換契約が違法であること

(1) 本件市道廃止処分は、道路法に違反する。

道路法10条1項は「都道府県知事又は市町村長は、都道府県道又は市町村道について、一般交通の用に供する必要がなくなったと認める場合においては、当該路線の全部又は一部を廃止することができる」と定める。被告が廃止した上記尾根道及びそれに至る山道は、上述のとおり多数の市民、近隣の人々によって現在に至るまで親しまれてきた道であるから、本件市道廃止処分には、全く理由がなく、上記道路法の規定に反するもので違法である。

(2) 本件土地交換契約は、市条例に違反する。

厚木市財産の交換、譲与、無償貸付等に関する条例は、普通財産（本件市道は本来行政財産であるが、市道廃止処分により、その道路敷き部分の土地は普通財産となった）の交換に関して次のように定める。

「普通財産は、次の各号の一に該当するときはこれを他の同一種類の財産と交換することができる。ただし、交換する財産の価格の差額がその高価なものの価額の6分の1をこえるときは、この限りではない」として、その(1)号において、「本市において公用又は公共用に供するため、他人の所有する財産を必要とするとき」と定めている。

本件土地交換契約によって厚木市が取得した土地は、「公用又は公共用に供する」目的を有しないから、上記要件に該当しないことは明白である。もともと、本件市道の廃止及び土地等価交換による処分をしなければ、廃

止された市道の付け替え道路の必要性は生じ得ないものだから、付け替え道路に供するため相模興業の土地を取得したという理屈は成り立たないものである。なお、廃止された各市道の「付け替え道路」が必要だとしたら、そもそも、廃止された市道が一般交通の用に供されていて、その代替道路が必要だということが前提になるから、被告は、本件各市道を廃止してはならないことになるのであり、いずれにしても、被告の行為は矛盾に満ちているということになるのである。

すなわち、厚木市としては、如何なる意味でも本件土地交換契約の必要性はなかったものであり、この契約は、上記条例にも反して違法である。

加えて、厚木市が取得した土地は、交換価値も皆無であり、上記条例第2条本文にも明白に違反する。地方自治体が土地交換契約をなすに当たっては、自治体に損害が生じないように慎重に審査し、土地の取引事例等も踏まえた取引価額の鑑定評価がなされるのが通常であるが、本件土地交換契約に関しては、このような鑑定評価が一切なされていない。上記条例第2条は、その適用に際して、「慎重な価額評価」を当然の前提にしていると解すべきである（このような価額評価がなされなければ、そもそも条例適合性の判断が不可能である）。

すなわち、上記価額評価をなさずに土地交換契約を締結したことは、道条例違反に止まらず、適正な対価であることの確認をなさずして、財産の処分をする場合に該当し、地方自治法237条第2項に反し、かつ、地方財政法4条1項の趣旨に反するものである。

(3) 本件土地交換契約は、市民にとって貴重な同市の財産を失わせるものであって、違法である。

廃止された本件市道の価値は、単に市場価格ないし交換価値だけで判断されるべきものではない（前記のようにその点で判断しても違法というべきだが）。既に述べたように、歴史的文化的価値、自然景勝としての価値、多数の市民に憩いの場を提供してきた価値、など市民の福祉や文化の維

持・保全上、欠くべからざる価値を有するものであって、このように貴重+
な市の財産を無価値な土地と交換するのは、明らかに市長としての責務に
反する。

なお、文化的歴史的価値ある市の財産を処分することそれ自体が直接的
に財務会計法規に違反しない場合であっても、住民訴訟の対象は、必ずし
も、財務会計法規それ自体に違反する場合だけに限定されないことは確定
した判例と解すべきである。

本件土地交換契約によって市が取得した土地は、もともと本件土地交換
契約がなされなければ、「その必要性が生じない土地」だったのであるから、
その価値はそもそも厚木市にとって評価に値しない。一方、訴外相模興業
が取得した土地(厚木市元所有地)は、同社にとって「宝の山」であり、将
来にわたって同社に莫大な利益をもたらすものであるが、それは、それら
が本来の歴史的文化的価値を有するがゆえではなく、その道路敷き部分及
びその周辺の土地が根こそぎ採石のための掘削の対象となり、破壊されて
「石ころ」に化ける点においてのみ価値を有する。

このように見てくると、被告の行為は、相模興業に莫大な利益を与える
ために、厚木市にとってかけがえのない貴重な文化的、歴史的価値のある
資産を失わせるものであって、厚木市及び厚木市民に対する重大な背任行
為というべきであり、これが違法であることは論をまたない。

(4) 本件市道廃止処分と本件土地交換契約は、著しく市民の福祉 と健康を害するものであって、市長としての責務に反する。

本件採石場増設事業の最大の問題の1つは、その歴大な採石量にある。
その採石量は本件土地交換契約によってもたらされるものである。

まず第1に、相模興業は、前記各市道の道路敷き部分を自己財産とした
ことで、高取山頂から南東に続く稜線約1281mの下を約200mも掘削し(そ
のため、山麓から見た西山の美しい稜線の景観が台無しになってしまう)、
高取山及びそれに連なる山々を頭から丸かじりするような採石が可能とな

った。山麓の中学校などではこの西山のやまなみの景観の美しさを讃える校歌なども作られているほど市民に親しまれているのに、それが失われるのである。これは、これら各市道がもつ歴史的文化的価値、そこを歩く人にとってこよなく楽しい景勝を与えてくれる価値とは、別個の価値をも喪失させるものである。

第2に、前記関連区域(既存の華嚴採石場)は1970年(昭和45年)頃より30年にわたる採石で終掘に近い状況にあって、周辺住民は永年のトラック公害からようやく免れ、あるいは、絶大な自然破壊もようやく終止符を打つ日も近いと期待していたところ、本件土地交換契約によって、市道保全のための許可条件(保安距離を含む、ひな段状に残された段丘)が除かれることになり、まさに従来以上の、しかも、さらに30年間も継続する大量の再採石と1日往復1000台もの砂利トラックの公害に苦しまされるおそれが現実のものになりつつある。

環境影響評価書によれば、本件採石場増設事業が実現した暁には、1日10tダンプ1000台(往復)の横行が見込まれ、交通被害の急増が確実視される。現状において、すでに、登校時の児童の安全確保のため保護者が交替で旗を振り、運転者の協力を求め、児童を誘導するなどの例も見られ、受忍の限界に達している。

更に深刻なのは排気ガスや道路粉じん、騒音などの被害である。ちなみに、10tダンプ1台の窒素酸化物排出量は3000ccの乗用車30台分に相当するとされている。そうすると、往復1000台は、3000ccクラスの乗用車3万台にも匹敵する交通量の激増に相当する。これらが自動車公害、沿道被害を発生させ、さらに交通事故の危険をも招くことは見やすい道理である。市民の受ける健康被害・生活上の被害(いわゆる生活妨害、欧米法で言うところのニューサンス)は測り知れないものがある。

さらに、合計101haにも及ぶ広大な地域の採掘は、それ自体重大な自然破壊であり、このような大規模な自然破壊は、騒音・振動・粉塵の継続的発生と相俟って、オオタカなどの絶滅危惧種を含めた動植物群の生態

系の破壊、農業用水、地下水の減少と汚濁、付近に存する活断層による地震も含めた不安定な地層の変動も予測され、原告ら付近住民にとって、正に憂慮百出の事態が現実化することになる。

西山の景観は郷土文芸や民俗行事に絶えず登場する。住民は今も、荻野音頭や荻野中学校校歌として地区や学校の行事の度に、称讃と愛着をこめた唄と踊りを楽しんでいる。その目の前で西山を平然と削らせる、地域住民、特に童心を傷つけることになる。これほど心無い仕打ちがあろうか。

旧荻野村の中央、元役場跡に立つ、先の大戦の戦没者慰霊塔に197名の氏名が刻まれている。西向きの碑面の彼方に西山が見える。異境戦陣にあって、明日をも知れぬ身の、肉親郷党への思いと重なったであろう、故山西山の静かな姿が其処にある。

西山は住民畏敬の山である。

厚木市長である被告が、このように市民に塗炭の苦しみを与える採石場増設事業に加担して、市道の廃止と土地交換契約を締結することは、市民の福祉と健康の増進に尽くすべき地方自治法上の義務に反する違法な行為である。

(5) 本件市道廃止処分は、本件土地交換契約の前提としてなされたもので、その違法性の判断に当たって、これらは一体として評価されるべきである。

○ 本件市道廃止処分は、行政財産たる市道の道路敷きを普通財産に転換して、本件土地交換契約の対象とするためになされた。すなわち、本件市道廃止処分は、本件土地交換契約の前提として、かつ、当該契約の履行のために不可欠の行為であった。

このように市道廃止処分の目的が土地交換契約の履行のためになされたものである以上、その違法性の判断は、土地交換契約の違法性の判断と一体としてなされるべきである。すなわち、本件土地交換契約が上述のように違法であって、その是正措置（契約前の原状復帰等）が必要と解される

以上、その前提としての本件市道廃止処分も、違法であって、これを無効と解することにより、その是正措置が図られなければならない。

地方自治法238条の4第1項は、行政財産の交換等を原則として禁止して、これに反する行為を無効としている（同条第3項）。そして、例外として、同条第2項を掲げる。本件土地交換契約が、この例外の場合に当てはまらないことはいうまでもない。本件土地交換契約は、行政財産の交換ではなく、普通財産の交換という形式を取ることによって、この禁止規定を脱法的に免れることを狙ったものである。本件土地交換契約に先行する市道廃止処分が、正に上記脱法行為を目的としたもので、その実質は行政財産の交換にほかならないから、同条第3項により、本件土地交換契約は無効と解するべきである。

4 住民監査請求及び監査結果の通知

原告らを含む厚木市民99名は、平成16年12月6日、厚木市監査委員に対し、本件市道廃止処分と一体となった本件土地交換契約の違法を理由として、その是正措置を求める住民監査請求を行ったが、同監査委員は、同17年2月4日、原告らを含む請求人らに対し、上記監査請求を棄却する旨の通知をした。

原告らは、上記監査結果の全部に不服である。

5 結語

よって、原告らは、地方自治法242条の2第1項第2号及び第3号の規定に基づき、請求の趣旨記載のとおり判決を求めるため本訴を提起したものである。

証拠方法

甲1号証

市道の付替について（申請）（添付書類一部省略）

甲 2 号証	市道路線の廃止について（厚木市告示 221 号）
甲 3 号証	廃道敷き（普通財産）の処分決定、土地交換契約及び登記手続について（起案文書）
甲 4 号証	土地交換契約書
甲 5 号証	厚木市財産の交換、譲与、無償貸付等に関する条例
甲 6 号証	開発計画書
甲 7 号証	相模興業㈱の華嚴採石工場における岩石採取拡大計画について（照会）
甲 8 号証	相模興業㈱の華嚴採石工場における岩石採取拡大計画について（回答）
甲 9 号証	相模興業採石場増設計画に係る環境影響予測評価実施計画書に関する意見について（回答）
甲 1 0 号証	相模興業採石場増設計画に係る環境影響予測評価書案に対する意見について（回答）
甲 1 1 号証	岩石採取計画認可に関する意見について（回答）
甲 1 2 号証	華嚴山松石寺の石仏（厚木近世史話より）
甲 1 3 号証	県央史談（抜粋）
甲 1 4 号証	厚木市史 中世通史編（抜粋）
甲 1 5 号証	厚木市史 近世資料編（抜粋）
甲 1 6 号証	松石寺新四国八十八ヵ所とその石仏群（厚木市文化財調査報告書第 1 3 集「野だちの石造物」より）
甲 1 7 号証	厚木市職員措置請求について（通知）
その他、口頭弁論の際、適宜提出する。	

添 付 書 類

1 代理委任状	2 1 通
2 甲号証写し	各 1 通

(別紙)

土地交換契約目録

契約締結日：平成16年7月13日

当事者：厚木市、相模興業株式会社

厚木市が相模興業に引き渡す土地（厚木市元所有地）目録

以下の10筆の土地

所在・地番	地目	公簿面積	実測面積
①厚木市中荻野字西山 1933 番 111	雑種地	967 m ²	967.71 m ²
②厚木市中荻野字西山 1933 番 112	雑種地	690 m ²	690.84 m ²
③厚木市中荻野字西山 1933 番 113	雑種地	672 m ²	672.47 m ²
④厚木市中荻野字西山 1933 番 114	雑種地	772 m ²	772.44 m ²
⑤厚木市中荻野字西山 1933 番 115	雑種地	308 m ²	308.93 m ²
⑥厚木市中荻野字西山 1933 番 116	雑種地	545 m ²	545.47 m ²
⑦厚木市中荻野字西山 1933 番 117	雑種地	309 m ²	309.76 m ²
⑧厚木市中荻野字西山 1933 番 118	雑種地	305 m ²	305.03 m ²
⑨厚木市中荻野字西山 1933 番 119	雑種地	989 m ²	989.47 m ²
⑩厚木市中荻野字西山 1933 番 120	雑種地	111 m ²	111.80 m ²

以上10筆合計 5668 m²（公簿上）、5673.92 m²（実測）

相模興業が厚木市に引き渡す土地（相模興業元所有地）目録

以下の15筆の土地

所在・地番	地目	公簿面積	実測面積
①厚木市中荻野字西山 1933 番 98	山林	599 m ²	599.97 m ²
②厚木市中荻野字西山 1933 番 103	山林	731 m ²	731.70 m ²
③厚木市中荻野字西山 1933 番 105	山林	395 m ²	395.63 m ²
④厚木市中荻野字西山 1933 番 107	山林	743 m ²	743.92 m ²
⑤厚木市中荻野字西山 1933 番 109	山林	445 m ²	445.76 m ²

⑥厚木市中荻野字西山 1933 番 121	山 林	329 m ²	329.30 m ²
⑦厚木市中荻野字西山 1933 番 122	山 林	20 m ²	20.35 m ²
⑧厚木市中荻野字西山 1933 番 123	山 林	433 m ²	433.49 m ²
⑨厚木市中荻野字西山 1933 番 124	山 林	253 m ²	253.13 m ²
⑩厚木市中荻野字西山 1933 番 125	山 林	1010 m ²	1010.60 m ²
⑪厚木市中荻野字西山 1933 番 126	山 林	382 m ²	382.83 m ²
⑫厚木市中荻野字西山 1933 番 127	山 林	230 m ²	230.22 m ²
⑬厚木市中荻野字西山 1933 番 128	山 林	235 m ²	235.80 m ²
⑭厚木市中荻野字西山 1933 番 129	山 林	77 m ²	77.73 m ²
⑮厚木市中荻野字西山 1933 番 130	山 林	14 m ²	14.96 m ²

以上 15 筆合計 5896 m² (公簿上)、5905.39 m² (実測)

(別紙)

廃止された市道の目録

整理番号	市道の名称
I-505	中萩野西山3号線
I-506	中萩野西山4号線
I-507	中萩野西山5号線
I-508	中萩野西山6号線
I-519	上萩野大平西山2号線
I-534	上萩野深掘西山線
I-705	上萩野用野華巖線